

2019年5月12日

一般社団法人日本サンゴ礁学会

会長 日高 道雄 殿

一般社団法人日本サンゴ礁学会 若手の会

水山 克・濱本 耕平

『サンゴ礁ウィーク 2019 への出展に関する報告書』

標題の件につきまして、無事に完了したことを、下記の通りご報告いたします。

記

1. 企画名：「沖縄のサンゴ礁研究最前線～カモンベイビーS&GO～」
2. 日時：2019年3月9日（土）13:00-18:00・10日（日）10:00-17:00
3. 場所：沖縄県立博物館・美術館（沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号）
県民アトリエ
4. 主催者：（主催）一般社団法人日本サンゴ礁学会 若手の会
（後援）沖縄県サンゴ礁保全推進協議会
一般社団法人日本サンゴ礁学会 教育・普及啓発委員会

5. 目的：

日本サンゴ礁学会若手の会に所属する若手研究者と琉球大学の学生が中心となって、①サンゴ礁を知ろう！、②サンゴ礁の生き物に触れよう！、③サンゴ礁分野における最新の研究成果報告のご紹介、と題してサンゴ礁を知ることの楽しさ・大切さを一般市民に伝達する。

6. 実施内容：

日本サンゴ礁学会若手の会に所属する若手研究者および琉球大学に在籍する大学生・大学院生・教職員の総勢18名によって、①サンゴ礁のジオラマ展示、②石灰岩他展示、③生体サンゴ展示、④ホシズナ展示、⑤ナマコ・ウニ・ウミエラ解説、⑥タッチプール、⑦マイクロプラスチック・オニヒトデ解説、⑧研究成果報告（ポスター、2件）⑨「海は生きている」上映、⑩ニセクロナマコ体験、⑪サンゴすごろく・サンゴ礁お絵かきを行った。

7. 実施状況：

2日間で計156名が来場した。客層は、当日博物館を訪れていた親子連れ（1歳～小学生）【5割】・シニア【1割】・大学生【1割】・その他地元民【1割】・関係者【1割】・外国人観

光客（アメリカ、カナダ、オーストラリア、オランダ、スロベニア、中国）【1割】であった。顕微鏡下で動くサンゴポリプを見て「本当に動物なんだ！」（親子連れ）、「大西洋で増えているミノカサゴをどう思うか？」（アメリカ人）、ナマコ解説を聞き「昔はもっとたくさんいて…」（地元民）といった感想が聞かれ、またタッチプールでは動くクモヒトデを始めは怖がりながらも徐々に慣れて触れて楽しむ様子が見られた。

8. 実施所感：

同イベント6回目の開催で、基本的なサンゴ礁を概説するコンテンツが拡充し、実験的なコンテンツまで手が回るようになった。博物館担当者からの来年度実施のリクエスト、美ら島財団関係者からの助成金の申し出、サンゴ礁学会からの全面的な支援、などがこれまでの継続的活動によって得られ、改めて（一社）日本サンゴ礁学会には厚く感謝申し上げたい。また今年の特筆すべき点は外国人観光客の増加で、幸い複数名での英語対応が可能であったが、これまで日本語に特化したコンテンツ製作を進めていたために今後の方針転換が課題として挙げられた。タッチプールにて沖縄の子供たちと外国人の子供たちが一緒に楽しんでいた姿が印象的だった。

9. 添付資料：

	
<p>会場の様子</p>	<p>サンゴ礁ジオラマ（提供：国立環境研究所）</p>
	
<p>外国人観光客と英語対応する学生</p>	<p>実施者集合写真（1日目）</p>

10. 実施者一覧：(順不同、所属は実施当時)

水山 克	琉球大学大学院理工学研究科博士後期課程 3 年次
櫛田 優花	琉球大学大学院理工学研究科博士後期課程 1 年次
林 希奈	琉球大学大学院理工学研究科博士前期課程 2 年次
栖原 有里	琉球大学大学院理工学研究科博士前期課程 2 年次
網田 全	琉球大学大学院理工学研究科博士前期課程 2 年次
濱本 耕平	琉球大学大学院理工学研究科博士前期課程 1 年次
児玉 悠仁	琉球大学大学院理工学研究科博士前期課程 1 年次
比嘉 彩也香	琉球大学大学院理工学研究科博士前期課程 1 年次
久貝 一平	琉球大学法文学部国際言語文化学科英語文化専攻 4 年次
岩城 悠佑	琉球大学理学部海洋自然科学科生物系 3 年次
儀間 幸太	琉球大学理学部物質地球科学科地学系 3 年次
長松 隼一郎	琉球大学理学部物質地球科学科地学系 3 年次
中谷 拓実	琉球大学理学部物質地球科学科地学系 3 年次
鈴木 陽樹	琉球大学理学部海洋自然科学科生物系 1 年次
佐藤 崇範	琉球大学島嶼地域科学研究所
栗原 晴子	琉球大学理学部海洋自然科学科生物系
北野 裕子	国立研究開発法人国立環境研究所
池内 絵里	沖縄県名護市

11. 協力者ならびに協力機関：(順不同、所属は実施当時)

藤田 和彦	琉球大学理学部物質地球科学科地学系
梅澤 有	東京農工大学大学院農学研究院
安田 仁奈	宮崎大学農学部海洋生物環境学科
中嶋 亮太	国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC)
	国立研究開発法人国立環境研究所

以上